

大阪産業大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）
2024（令和6）年度 自己点検・評価報告書

プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）
内部質保証推進委員会 数理・データサイエンス・AI教育推進部会

点検・評価項目			自己評価	点検・評価結果	指標・根拠等	点検・評価結果を踏まえた改善の方向性・取組等
学内からの視点	1	プログラムの履修・修得状況	C	2024年度はカリキュラム改正時期の都合で、履修登録者は年間で17名にとどまった。修得状況は良好で、16名が合格した。	履修・成績情報	2025年度は、総合教育科目の中の「データサイエンスの基礎」として開講され、履修者数の問題は改善される見込みである。
	2	学修成果	B	授業アンケート対象クラスにおける授業内容や満足度に関するアンケート結果は概ね全科目平均を大きく上回っており、リテラシー科目として、データサイエンスを学ぶ上での常識や心得を伝えるという目的は果たせていると考える。	授業アンケート結果	元々の予備知識には個人差が大きいいため、全員に修得を課す内容であるか、上級者を飽きさせないような発展的内容であるかを分かるように伝えたい。また、本項をより適切に評価できるよう、学内共通の授業アンケートとは別に、本プログラム向けのアンケートを設計したい。
	3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	授業アンケート結果は大変良好であった。授業アンケート対象クラスにおける授業の満足度が5段階中4.71、授業のわかりやすさに関するアンケート結果も5段階中4.71と高い結果となった。	授業アンケート結果	次年度も高評価が得られるように努めたい。また、本項をより適切に評価できるよう、学内共通の授業アンケートとは別に、本プログラム向けのアンケートを設計したい。
	4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	授業アンケート結果は大変良好であった。授業アンケート対象クラスにおける授業の満足度についても、5段階中4.71と高い結果となった。	授業アンケート結果	次年度も高評価が得られるように努めたい。また、本項をより適切に評価できるよう、学内共通の授業アンケートとは別に、本プログラム向けのアンケートを設計したい。
	5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	C	全新生に向けて周知チラシを配布したが、2024年度はカリキュラム改正時期の都合で全新生を受講対象とするため既存科目「特殊講義」として開講し、履修登録方法が通常と異なったため、履修登録者は年間で17名、うち合格者は16名であった。	履修・成績情報	2025年度は、総合教育科目の中の「データサイエンスの基礎」として開講する。通常の履修登録方法により、年間200名程度の受講者を受け入れる予定であり、改善される見込みである。また、新入生には引き続きチラシ配布により履修率向上に努める。
学外からの視点	6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	2024年度から開講したプログラムであるため、十分な評価が行える段階に至っていない。現在、アンケート等で適切に評価できる仕組みを検討している。		年次進行した修了生に対するアンケート実施や卒業後アンケート等への反映、外部評価委員会を活用した運用等を具体的に検討し、評価体制の整備に向けた取り組みを進めたい。
	7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	—	2024年度から開講したプログラムであるため、十分な評価が行える段階に至っていない。2025年度より、実施結果を踏まえたアンケートや外部評価等の仕組みを運用したい。		企業アンケート等への反映、外部評価委員会を活用した運用等による評価体制を整備し、2025年度より評価を実施したい。
	8	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	MDASHのモデルカリキュラムに則った内容で講義した。データサイエンスを学ぶ上での常識や心得は伝えられた。授業アンケート対象クラスにおける授業の満足度についても、5段階中4.71と高い結果となった。	授業アンケート結果	昨今の生成系AIの発展には目覚ましいものがある。こうした時事的な内容も取り込めたらよいと思う。また、本項をより適切に評価できるよう、学内共通の授業アンケートとは別に、本プログラム向けのアンケートを設計したい。
	9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	資料PDFには、図表を織り込み、補足や発展的内容のWebページをリンクするなど、わかりやすさに努めた。授業アンケート対象クラスにおける授業のわかりやすさに関するアンケート結果も、5段階中4.71と高い結果となっており、「分かりやすい」授業となっている。	授業アンケート結果	学生の予備知識には大きな差があるので、個々に対応して説明を加えたり理解を深めるには、ハイパーリンクの利用が有効であると考え。また、本項をより適切に評価できるよう、本プログラム向けのアンケートを設計したい。

【自己評価】 A：高いレベルの取り組みであり、改善の必要がない。 B：標準的なレベルの取り組みであり、改善の必要がない。 C：改善の必要がある。

※自己評価「—」：本プログラムは2024(令和6)年度に初めて実施したことから、プログラム実施後の評価を要する項目に対し、十分な評価が行える段階に至っていないと捉え、「—」と表記しています。